

バイオセーフティ国際シンポジウム

2007年11月16日

「BSL4施設：世界の視点から日本を見る」

座長：倉根 一郎・杉山 和良

- 14:00-14:10 はじめに 国立感染症研究所 倉根 一郎
- 14:10-14:50 ① イタリアにおける BSL-4 を用いた感染症対策
演者：Maria R.Capobianchi, Director, Laboratory of Virology
National Institute for Infectious Diseases “L.Spallanzani”
- 14:50-15:30 ② An overview of Recent BSL-4 Facilities; New Paradigms
and Lessons Learned
演者：Jon Crane, CUH2A, Architects Engineers Planners, Atlanta, Georgia, USA
- (休憩 10分)
- 15:40-16:20 ③ 台湾における BSL-4 施設の現状(仮題)
演者：
- 16:20-17:00 ④ WHO のバイオセーフティ戦略
演者：Peter I. Galace, Technical Officer, Communicable Disease Surveillance and
Response, WHO/WPRO, Manila, Philippines
- 17:00-17:40 ⑤ CEN イニシャチブ：バイオセーフティ/バイオセキュリティの国際的な現状
について
演者：Stefan Wargner, National Microbiology Laboratories, PHA of Canada
- 17:40-18:00 追加発言・討論他

共催：NPO 法人バイオメディカルサイエンス研究会
BSL4 を必要とする新興感染症対策研究班
(科学技術振興調整費「高度安全実験(BSL-4)施設を必要とする
新興感染症対策に関する調査研究」事業)

後援：厚生労働省
WHO 西太平洋地域事務局 (WHO/WPRO)

- * 本シンポジウムは日・英同時通訳を致します。
- * プログラム順序および演者を変更する場合があります。予めご了承ください。
- * 本シンポジウムの参加費は不要(無料)です。